



Axell

Financial results briefing

株式会社アクセル 決算説明資料

2026.05.11

証券コード 6730

Contents

- 01 2026年3月期の業績と2027年3月期の業績計画
- 02 今後の成長戦略

2026年3月期の業績 2027年3月期の業績計画

執行役員 管理グループGM
田中 大輔



2026年3月期 連結業績の概要（予想値の変遷と実績）

（単位：百万円）

	‘26/3 当初計画	売上比	‘26/3 0922修正	売上比	‘26/3 連結実績	売上比
売上高	12,000	100%	13,770	100%	14,656	100%
売上原価	8,250	69%	9,330	68%	9,947	68%
売上総利益	3,750	31%	4,440	32%	4,709	32%
販管費	2,750	23%	3,050	22%	3,044	21%
営業利益	1,000	8%	1,390	10%	1,664	11%
経常利益	1,020	9%	1,480	11%	1,792	12%
親会社株主 帰属利益	730	6%	1,050	8%	1,230	8%
EPS	66.58円		97.52円		113.71円	
DPS	33.00円		49.00円		57.00円	
配当性向	49.6%		50.2%		50.1%	

2026年3月期 連結業績の概要（前期との対比）

（単位：百万円）

	‘25/3 連結実績	売上比	‘26/3 連結実績	売上比	増減額	増減率
売上高	15,244	100%	14,656	100%	△587	△4%
売上原価	10,856	71%	9,947	68%	△908	△8%
売上総利益	4,388	29%	4,709	32%	321	7%
販管費	2,926	19%	3,044	21%	117	4%
内、研究開発費	1,547	10%	1,641	11%	93	6%
営業利益	1,461	10%	1,664	11%	203	14%
経常利益	1,542	10%	1,792	12%	249	16%
親会社株主 帰属利益	978	6%	1,230	8%	251	26%

1株当たり当期純利益

EPS
113.71円

配当性向
50.1%

期末配当
1株当たり57円

自己資本当期純利益率

ROE
9.3%

2026年3月期 連結売上高の概要（前期との対比）

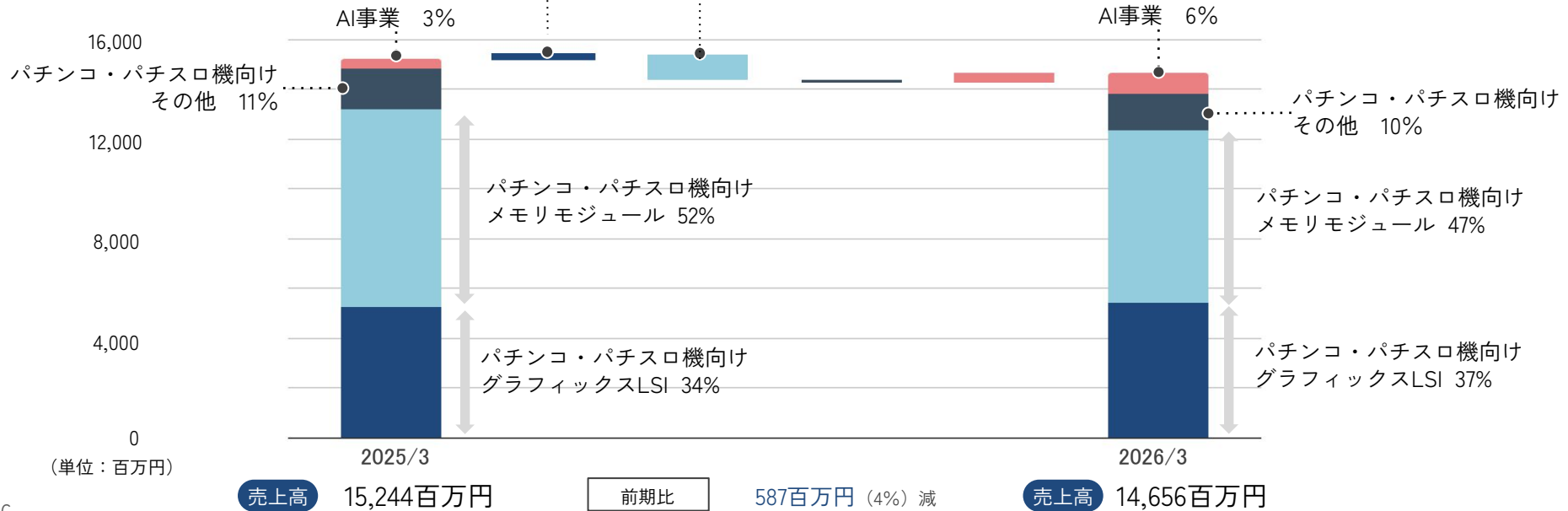
■ グラフィックスLSI
 市場規模 153万台 → 148万台
 販売個数 51万個 → 46万個
 リユース率 40% → 35%
 シェア 約55% → 約55%

● 高付加価値製品の販売数は増加

■ メモリモジュール
 市場規模 左記同様
 販売個数 82万個 → 65万個
 リユース率 30% → 45%
 シェア 約80% → 約80%

● メモリ容量の大きい高単価製品の販売数は増加

※市場規模は非液晶機含む

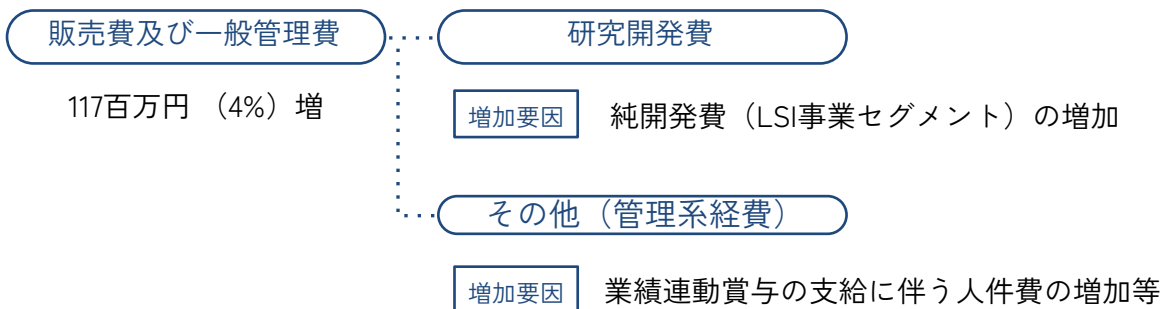


2026年3月期 連結販売費及び一般管理費（前期との対比）

販売費及び一般管理費 3,044百万円（前期比117百万円 4%増）

（単位：百万円）

	'25/3 連結実績	構成比	'26/3 連結実績	構成比	増減額	増減率
販管費合計	2,926	100%	3,044	100%	117	4%
研究開発費	1,547	53%	1,641	54%	93	6%
内、純開発費	311	11%	397	13%	86	28%
内、純開発費以外	1,236	42%	1,243	41%	7	1%
その他	1,379	47%	1,403	46%	24	2%



2026年3月期 連結セグメント情報（前期との対比）

（単位：百万円）

		‘25/3 連結実績	‘26/3 連結実績
全社業績	売上高	15,244	14,656
	営業利益	1,461	1,664
LSI事業 パチンコ・パチスロ機向け製品	売上高	14,804	13,793
	セグメント利益	2,610	2,566
AI事業 AI、組み込み機器向け製品等	売上高	440	862
	セグメント損失	△495	△168
調整額 セグメントに配分しない全社費用	全社費用	△654	△733

※以下の通り、報告セグメントの名称を変更しました。

- ・「LSI開発販売関連」は、「LSI事業」に変更
- ・「新規事業関連」は、「AI事業」に変更

なお、名称のみの変更でセグメント情報に与える影響はありません。

2026年3月期 連結財政状態（前期末との対比）

（単位：百万円）

	‘25/3末 連結	構成比	‘26/3末 連結	構成比
流動資産	12,411	83%	12,804	79%
現金・預金	5,000	33%	4,170	26%
売掛金/契約資産	1,488	10%	1,684	10%
有価証券	1,600	11%	1,500	9%
商品及び製品	3,908	26%	4,859	30%
その他	413	3%	590	4%
固定資産	2,631	17%	3,304	21%
資産合計	15,042	100%	16,109	100%
流動負債	1,984	13%	2,334	14%
固定負債	42	0%	42	0%
負債合計	2,026	13%	2,377	15%
純資産合計	13,015	87%	13,732	85%
負債・純資産合計	15,042	100%	16,109	100%

商品及び製品

951百万円 増

※近年の半導体不足の経験から、
供給責任を果たすための在庫の適正化を継続

固定資産

673百万円 増

投資有価証券の取得・評価

純資産合計

716万円 増

その他有価証券評価差額金の増加、
利益剰余金の増加、自己株式の取得

2026年3月期 連結キャッシュ・フロー計算書（前期との対比）

（単位：百万円）

	‘25/3 連結実績	‘26/3 連結実績
現金及び現金同等物の期首残高	9,816	6,600
現金及び現金同等物増加（△減少）額	△3,215	△930
営業キャッシュ・フロー	△1,575	223
投資キャッシュ・フロー	△766	△498
財務キャッシュ・フロー	△873	△714
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	59
現金及び現金同等物の期末残高	6,600	5,670

営業キャッシュ・フロー

税金等調整前純利益	1,783百万円
売上債権の増加	△195百万円
棚卸資産の増加	△951百万円
その他の流動資産の増加	△220百万円
仕入債務の減少	△375百万円
その他の流動負債の増加	246百万円
法人税等の支払	△264百万円

投資キャッシュ・フロー

有形固定資産の取得	△85百万円
投資有価証券の取得	△445百万円

財務キャッシュ・フロー

自己株式の取得	△227百万円
配当金の支払い	△493百万円

2027年3月期 連結業績の予想値（実績との対比）

（単位：百万円）

	'26/3 連結実績	売上比	'27/3 連結計画	売上比	増減額	増減率
売上高	14,656	100%	15,000	100%	343	2%
売上原価	9,947	68%	10,600	71%	652	7%
売上総利益	4,709	32%	4,400	29%	△309	△7%
販管費	3,044	21%	3,200	21%	155	5%
営業利益	1,664	11%	1,200	8%	△464	△28%
経常利益	1,792	12%	1,270	8%	△522	△29%
親会社株主 帰属利益	1,230	8%	890	6%	△340	△28%

売上高

セグメント別の売上高計画

14,300百万円（実績比4%増）
（3月末受注残：14,929百万円）
メモリ価格の高騰を受け、販売価格の
適正化を実施

LSI事業

AI事業

700百万円（実績比19%減）

売上高・売上総利益

- 売上高はメモリモジュールの販売価格の適正化等により増収
- 一方、売上総利益は、市場規模の縮小の影響により減益
- メモリモジュールは前期並みの粗利単価を維持するものの、利益率は低下見込み

2027年3月期 連結売上高の予想（実績との対比）

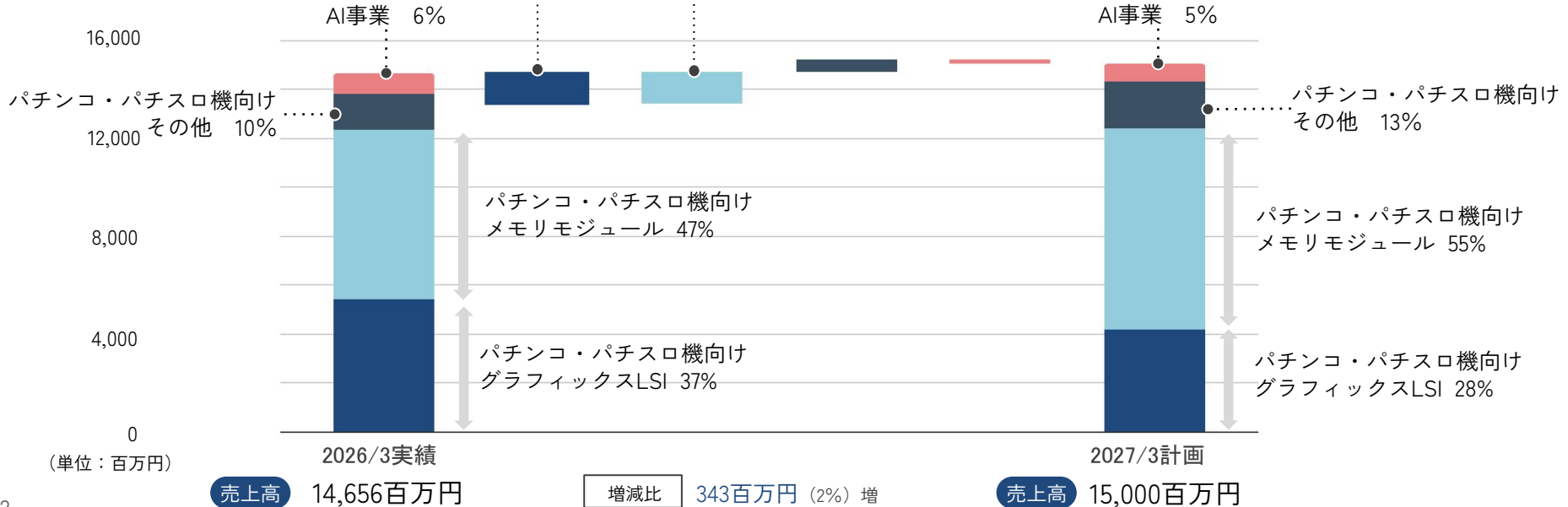
■ グラフィックスLSI
 市場規模 148万台 ➡ 135万台
 販売個数 46万個 ➡ 31万個
 リユース率 35% ➡ 50%
 シェア 約55% ➡ 約55%

● 高単価製品の販売数は増加

■ メモリモジュール
 市場規模 左記同様
 販売個数 65万個 ➡ 55万個
 リユース率 45% ➡ 50%
 シェア 約80% ➡ 約85%

● メモリ価格の高騰を受け、販売価格の適正化を実施

※市場規模は非液晶機含む



2027年3月期 配当予想の発表

期末配当予想を
発表

配当方針（配当性向50%：連結決算）に則り配当額を算定

‘26/3 実績

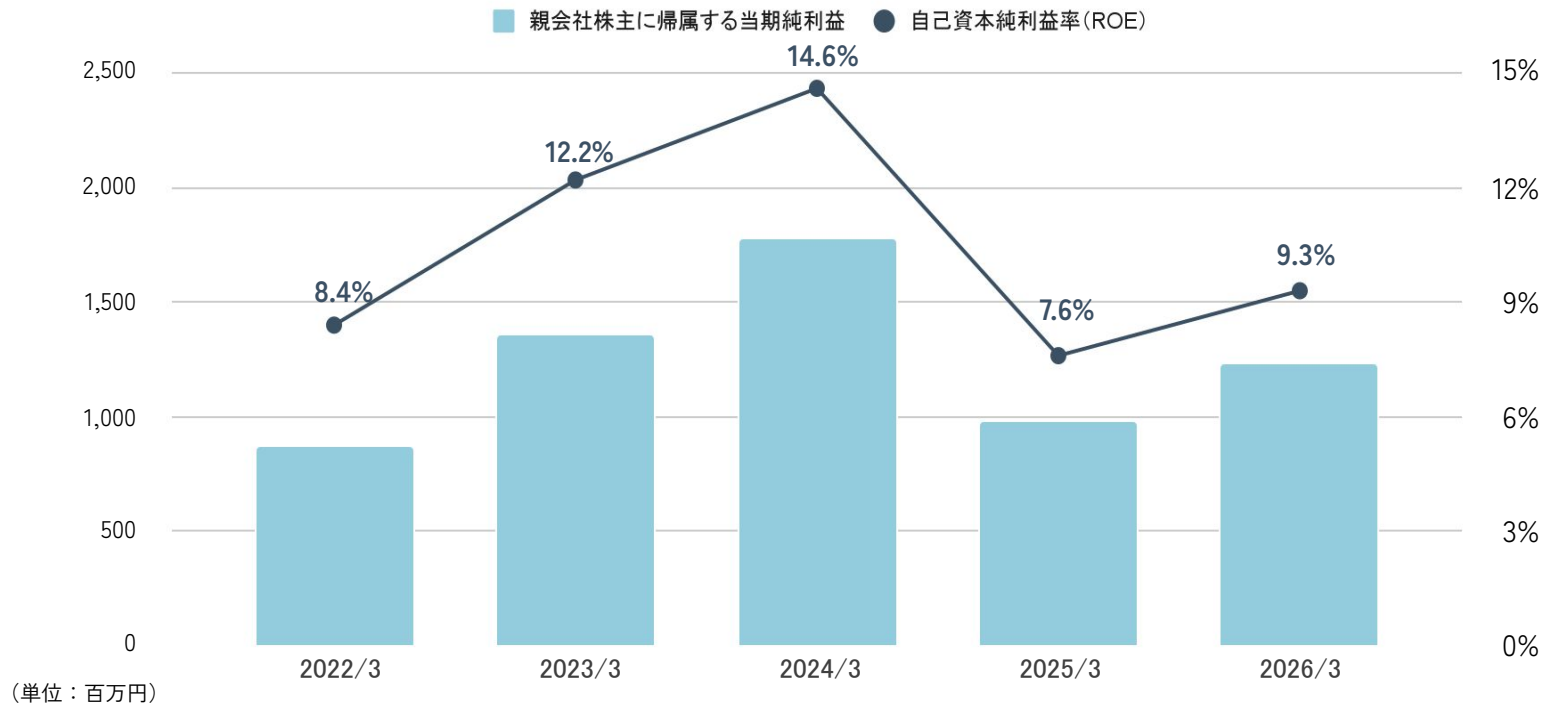
1株当たり純利益 113.71円
1株当たり配当額 57円
連結配当性向 50.1%

‘27/3 計画

1株当たり純利益 82.63円
1株当たり配当額 41円
連結配当性向 49.6%



過去5年間の自己資本純利益率（ROE）推移



今後の成長戦略

代表取締役会長兼社長
松浦 一教



今後の事業の方向性

遊技機市場向けは、**製品ポートフォリオを拡充**し事業拡大を図る
新規事業は、**AI事業を早期確立**の上、**更なる新事業の創出**を検討

LSI事業セグメント

遊技機（パチンコ・パチスロ機）市場向け

グラフィックスLSI

次世代製品の開発を継続

メモリモジュール

次世代製品の開発を継続

その他

製品ポートフォリオの拡充を継続



Axell

aimRage

AI事業セグメント

新規事業

AI事業

AIコンピューティング事業に注力し、
収益化フェーズへの早期移行を図る

その他

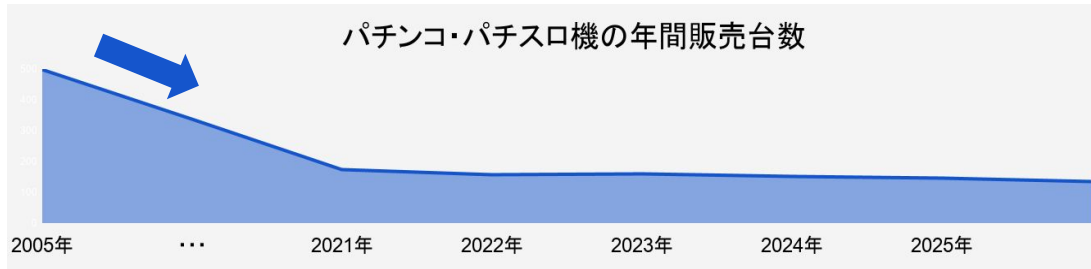
基礎研究を継続的に行い、
更なる新事業の創出を検討

Axell

ai|ia

遊技機市場の構造変化

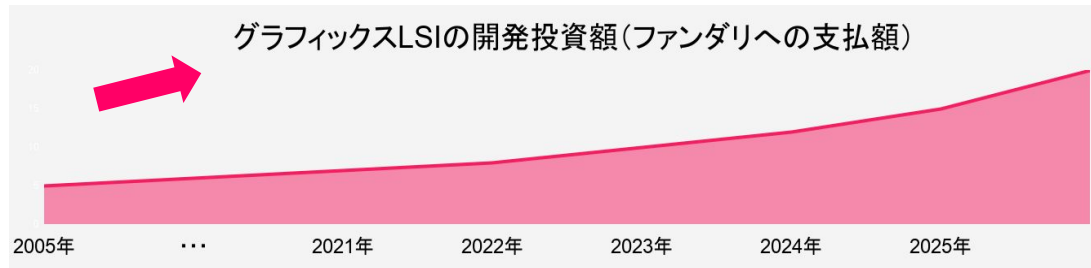
市場規模の縮小および開発投資額の高騰により、
市場シェアの高い当社にとって、競争優位な市場構造に変化



20年前は、年間約500万台

↓

市場規模の縮小とともに
競合社が減少したが
年間約150万台で推移



20年前は、数億円程度

↓

先端プロセスの開発費が
増加傾向にあり、
参入障壁が高まっている

※グラフはイメージです。

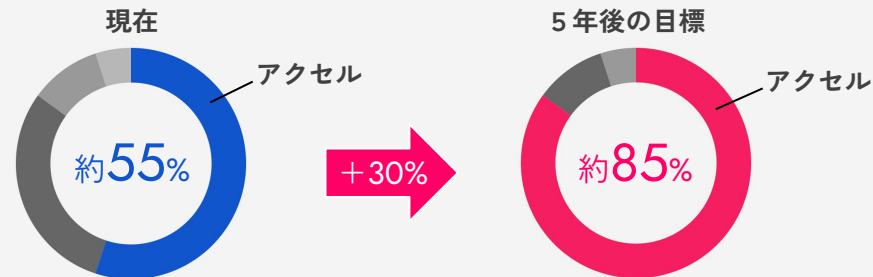
当社の強みと今後の市場シェア目標

主製品が市場シェア55%~80%という圧倒的なプレゼンス
さらなる市場シェアアップへ

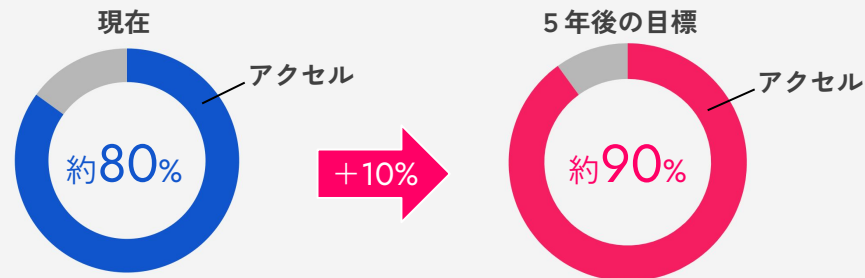
競争優位の確立

- 01 圧倒的なシェアと開発継続力
- 02 動画再生など市場ニーズを的確に捉えた製品仕様
- 03 ソフトウェア開発環境
- 04 手厚いサポートによる顧客との強固な関係性

グラフィックスLSIシェア

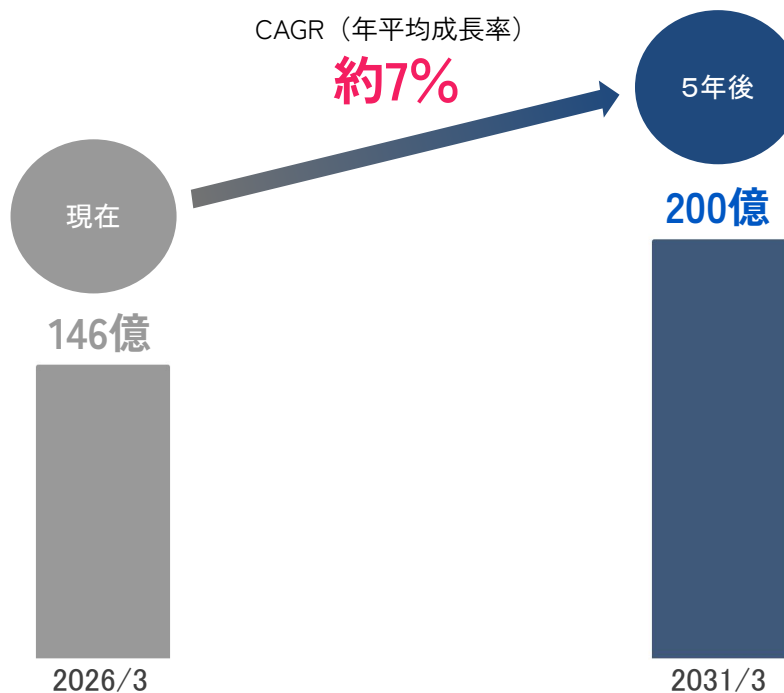


メモリモジュールシェア



将来ビジョン

市場シェア目標の達成により、
売上高200億円、営業利益30億円まで成長



前提

市場規模：135万台
シェア：85%~90%
リユース率：2026年3月期と同水準

売上高 **200億円超**

営業利益 **30億円超**

エッジAI市場とAIコンピューティングについて

エッジAI機器は、アプリケーションの下層に複数の構成要素があり、
その内、**半導体～AIモデルがAIコンピューティングの領域**

エッジAI機器

車載、産業機器、
ロボット等

半導体

OS

AIフレーム
ワーク

AIモデル

アプリケー
ション

車載

(ADAS、DMS)



産業機器

(FA機器)



高度なエッジAIには特定用途向けに最適化が必須

エッジAIを動かすには、限られたリソースの中で処理速度を高める必要があり、
個別の機器に合わせて、半導体～AIモデルを最適化することが求められている

AI事業における当社の強み

ハードウェアとソフトウェアの両面から最適化・高速化することで、
高性能なエッジAIソリューションを提供可能

エッジAIにおける当社の強み

- 01 半導体の製品開発で培ったハードウェア・OSの知見
- 02 AI推論フレームワークをゼロから独自開発
- 03 特定用途に特化したカスタムAIモデル

Axell

半導体開発

ai|ia

AI開発

あらゆる機器に高性能AIを実装可能

2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の
テーマ事業プロデューサー・落合陽一氏が手掛けた
パビリオン「null²」に技術パートナーとして協賛



大阪・関西万博 シグネチャーパビリオン「null²（ヌルヌル）」

シャープビジネスフォーラム2026東京
特別講演に客野CTOが登壇

その他の講師一覧

森永 康平 氏、橋下 徹 氏、
登坂 淳一 氏、金子 恵美 氏

名だたる顔ぶれの中、AIの専門家として講演

開催概要: <https://jp.sharp/business/event/ebt/>

AI企業としての認知度向上に寄与

参考：経営体制と新組織について

経営体制の強化・充実を図り、持続的な成長と更なる企業価値の向上を目指すため、**代表取締役の異動と新組織の発足を決定**



代表取締役会長兼社長
松浦 一教



代表取締役副社長 営業グループGM
岸本 貴臣



常務取締役CTO
客野 一樹



取締役 技術グループGM
菊地 篤志

新組織

新事業創出室

- ・更なる新事業の創出を検討
- ・事業ポートフォリオの拡充

※経営体制は、定時株主総会での取締役選任議案の承認を前提

参考：当社の基礎研究について

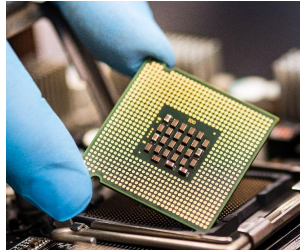
CPUの次世代世界標準「RISC-V」

特長

- ・ライセンスフリー
- ・オープンソース
- ・最低限のシンプル設計

メリット

- ・コスト削減
- ・製品供給の安定化
- ・開発環境が充実
- ・高いカスタマイズ性
- ・省電力化、低発熱化が可能



組み込み機器から次世代エッジAIまで、
顧客向けにカスタマイズして提供可能

完全準同型暗号の1つ「TFHE」



暗号化データ



TFHE

暗号化した状態で
AI推論

暗号化したままAI推論等の演算処理を実行する次世代技術
プライバシー保護とデータ活用の両立を実現

Axell

本資料に記載の予想数値を含む将来に係る情報は、現時点における仮定を前提としています。

実際の業績は、今後のさまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

本資料の一部または全部を弊社の許可なく、転載・複写することのないようお願い申し上げます。